



臨各論 国家試験 問題集2026

第1回～第34回
はり師・きゅう師
あん摩マッサージ指圧師



ウエマツ創研
Uematsu Laboratory

●はじめに

この問題集は私が学生時クラスの勉強会で使用し、その後改変を加えてきたものです。第1回～第34回までのあん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師国家試験

臨床医学各論の全問題です。勉強がしやすいように教科書の章ごと項目ごとに並び替え、出題年度順に並んでいますので、繰り返し同じような問題や出題傾向がわかってくるようになります。

重要なことは、**臨床医学各論は国家試験では得点源**であるということです。

●全部解かなければいけないというわけではない

臨床医学各論の問題が1486問あります。すべての問題を丁寧に解くことはなかなか難しいと思います。臨床医学各論はどちらかというと「浅く広く」勉強していくことが早道だと思われます。そして、得手不得手がありますので、自分が解ける章から始めていくことをお勧めいたします。時間は有限ですので、初めから順番に解いていては時間がかかってしまいます。

●始めは誰でもできない

始めは誰でもすんなりできません。焦らず進めてください。繰り返し解くことで必ず「チカラ」がつきます。繰り返し解いた事により、あん摩マッサージ指圧師国家試験で150点中、137点取れた私が、その証拠です。

1人では勉強が進まないときは数人でグループを作って勉強会をやってみてください。効率が良いです。人に教えることで、そして教わることで「チカラ」がつきます。そうしてきたわたしのクラスは全員が国家試験を合格しました。チームワークも大切です。

最後に発行にあたり、ご教示頂いた先生方、共に学んだクラスメイト、家族に感謝いたします。

ウエマツ創研 出版部
植松漁師

●あん摩マッサージ指圧師国家試験 臨床医学各論出題傾向

問題数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
感染症	45	6.2%		1	1	1	2	1	1	1	1		1	1	1	1	2	4	1	2	1	1	1	1	1	3	4	1	3	2	3	1	1			
消化管疾患	36	5.0%	1	2	2	3	3	1		1	1		1				1	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
肝・胆・膵疾患	39	5.4%	1	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1	2	1	1	2	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	
呼吸器疾患	58	8.0%	2	2	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	3	2	3	1	1	2	3	1	2	2	3	3	1	1	1	1	3	5	1			
腎・尿路疾患	29	4.0%	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2				
内分泌疾患	33	4.6%	1	1				1	1	2	2	1	2	1	1	3	2	2	1	1	1	3	2	1	1	2						1				
代謝・栄養疾患	50	6.9%	1	4	3		1	3	1	1	1	3	1	1	3	1	3	2	1	1			2	1	2	2	1			4	3	1	3			
整形外科疾患	134	18.6%	5	3	2	3	3	3	4	3	4	4	2	4	4	2	4	3	5	2	3	6	5	3	7	6	7	5	6	7	4	8	1	3	3	
循環器疾患	42	5.8%	2	2	2	2	2	1	1	1	3	3	1	3	1			2	1			2	2	1	1	2	1	3			1	2				
血液・造血管疾患	38	5.3%	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	3	1	1	1	1	1	3	1	1	3	1	2	1	1	2	1	4	1				
神経疾患	78	10.8%	2	3	4	2	2	2	4	1	2	4	3	2	4	1	2	1	1		2	7	3	2	3	1	4	2	5	2	1	3	1	1		
リウマチ性疾患・膠原	39	5.4%	1		1	1	1	2	2			1	1	3	2	2	1	2	1	2	3	2	1	1	1	1	2	1	3			1				
その他の領域	100	13.9%	4	3	5	6	4	6	5	4	3	4	4	3	2	2	1	2	6	4	3	2	4	1	3	1	4	2			1	3	6			
	721		21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

●はり師きゅう師国家試験 臨床医学各論出題傾向

問題数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
感染症	36	4.7%	1	2				2	2	1			1	1	1			1	3	1	2	1	1		1	1	2	3	2	2	2	1	2			
消化管疾患	34	4.4%	1	1	1	1		2	2				1	1	1	1	1	2	1	3	2	4	1	2	1	2	1	1	1	4						
肝・胆・膵疾患	53	6.9%	2	3	1		3	1	1	1	1	1	1	4	2	1	1	3		3	3	3	3	3	1	2	3	3	4	1	2	1	2			
呼吸器疾患	67	8.8%	2	1	3	1	1	1	1	1	3	1	4	2	1	2	2	2	1	2	2	3	1	1	2	3	3	3	2	1	1	6	4	3	1	
腎・尿路疾患	37	4.8%	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1	4	1	1	2		
内分泌疾患	40	5.2%	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2	3	1	2	1	2	1	1	1	2	3	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1		
代謝・栄養疾患	36	4.7%	1	1	1			2	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	3	1	1	1	1	2		
整形外科疾患	139	18.2%	2	4	3	3	3	4	4	4	1	3	2	5	2	2	3	5	2	3	4	5	4	5	4	7	5	7	3	2	7	5	6	9	7	
循環器疾患	51	6.7%	2	3	1	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1		2	2	3	4	2	1	4	1	1	2			1	2	2	3			
血液・造血管疾患	38	5.0%	1	1	2	1	1	1	1		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	2	3	2	1	
神経疾患	96	12.5%	1	2	3	3	5	4	4	3	1	3	3	3	2	6	4	3	1	2	2	3	3	3	2	4	3	3	1	4	4	4	5			
リウマチ性疾患・膠原	32	4.2%	1	1	3				1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	3	3	1	3	1	3										
その他の領域	106	13.9%	5	1	3	3	4	3	2	4	6	7	8	1	4	5	3	2	2	2	2	3	3	1	2	1	1	3	1	3	7	2	4	4	4	
	765		20	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	21	22	24	22	23	23	23	24	23	23	30	28	28	30	30

● [解説機能]

パソコン、スマートフォンから解説が参照できるようになりました！
問題の選択肢の右側に書いてある2～5ケタの数字を入力すると
簡単な解説をご覧いただけます。

ウエマツ創研がお勧めする勉強方法は「**自分で調べる事!**」ですが、

- ・導き出した答えが合っているかどうか不安
- ・どうしても突破口が開けない
- ・調べるのに時間がかかってしまう
- ・調べ物は苦手

などという方はご利用ください！



→ <https://www.ue-labo.jp/pub/kak.html>

※ インターネット接続に関する費用や通信費(パケット代)は別途、お客様のご負担となります。

▶ 1-1. 破傷風について正しい記述はどれか。 1. 破傷風菌は好気性である。 2. 菌の内毒素によって発症する。 3. 経口的な感染が多い。 4. 予防にワクチンが有効である。	第13回 鍼灸 (3954)
1-2. 破傷風について誤っている記述はどれか。 1. 病原体は土壤中に存在する。 2. 外傷後の発症が多い。 3. 内毒素により発症する。 4. 筋肉のけいれんが特徴である。	第14回 按マ指 (4106)
▶ 1-3. 院内感染と関連が深いのはどれか。 1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 2. A群溶血連鎖球菌 3. 肺炎球菌 4. 破傷風菌	第21回 鍼灸 (6413)
1-4. 院内感染と関連が深いのはどれか。 1. 破傷風菌 2. MRSA 3. 肺炎球菌 4. ボツリヌス菌	第29回 鍼灸 (8905)
1-5. 介護保険施設で、MRSAの保菌者が確認されたときの対応として最も適切なのはどれか。 1. 入所者全員の保菌の有無を調べる。 2. 接触感染予防策としてアルコール手指消毒剤を使用する。 3. 保菌者のレクリエーションへの参加を制限する。 4. 保菌者は入浴を控えさせる。	第32回 按マ指 (9747)
▶ 1-6. 細菌性食中毒の原因菌として誤っているのはどれか。 1. サルモネラ菌 2. 腸炎ビブリオ 3. 病原大腸菌 4. 溶血性連鎖球菌	第3回 按マ指 (700)
1-7. 食中毒について正しい記述はどれか。 1. 潜伏期が長い。 2. 原因となる微生物はウイルスが多い。 3. 胃腸炎の症状を示すものが多い。 4. 死亡することはない。	第7回 按マ指 (1954)
1-8. 食中毒の原因で致死率が最も高いのはどれか。 1. ボツリヌス菌 2. サルモネラ属 3. 腸炎ビブリオ 4. 黄色ブドウ球菌	第14回 鍼灸 (4246)
1-9. 細菌性食中毒で球麻痺症状を起こすのはどれか。 1. サルモネラ菌 2. ボツリヌス菌 3. 腸炎ビブリオ 4. カンピロバクター	第15回 按マ指 (4430)
1-10. 潜伏期が最も短い食中毒の原因菌はどれか。 1. ブドウ球菌 2. 腸炎ビブリオ 3. サルモネラ属 4. ボツリヌス菌	第18回 鍼灸 (5501)

1-11. 細菌性食中毒で正しい記述はどれか。	
1. サルモネラ属は潜伏期が1週間である。 2. 腸炎ビブリオによる食中毒はボツリヌスより発症頻度が低い。 3. ボツリヌス菌毒素は高温加熱によっても不活性化されない。 4. 腸管病原性大腸菌ではペロ毒素によって発症する。	第20回 鍼灸 (6121)
1-12. 細菌性腸炎の原因菌と食品の組み合わせで誤っているのはどれか。	
1. サルモネラ属――ハチミツ 2. 腸炎ビブリオ――生鮮魚介類 3. ブドウ球菌――にぎりめし 4. カンピロバクター――鶏肉	第31回 鍼灸 (9574)
1-13. 食中毒の原因となる細菌と食品の組合せで正しいのはどれか。	
1. サルモネラ属――魚介類 2. 腸炎ビブリオ――レバー 3. カンピロバクター――鶏肉 4. 腸管出血性大腸菌――鶏卵	第33回 鍼灸 (10249)
1-14. 細菌性赤痢で誤っているのはどれか。	
1. 経口感染 2. 頻回下痢 3. 粘血便 4. バラ疹	第6回 按マ指 (1629)
1-15. 三種混合ワクチンに含まれないのはどれか。	
1. 破傷風 2. 百日咳 3. 腸チフス 4. シフテリア	第17回 按マ指 (5050)
1-16. 疾患と症状との組合せで誤っているのはどれか。	
1. 猩紅熱 - コプリック斑 2. 破傷風 - 牙関緊急 3. 細菌性赤痢 - 膿粘血便 4. シフテリア - 咽頭・喉頭偽膜	第17回 鍼灸 (5191)
1-17. 予防接種が有効な感染症はどれか。	
1. 赤痢 2. コレラ 3. C型肝炎 4. 百日咳	第20回 按マ指 (5980)
1-18. 感染症で正しいのはどれか。	
1. 猩紅熱はウイルス感染症である。 2. マイコプラズマ肺炎は若年者に好発する。 3. ブドウ球菌感染症には耐性菌はない。 4. 細菌性赤痢の潜伏期は約2週間である。	第24回 按マ指 (7196)
1-19. 細菌感染症はどれか。	
1. 百日咳 2. 後天性免疫不全症候群 3. 風疹 4. 流行性耳下腺炎	第26回 按マ指 (7813)
1-20. 細菌感染症はどれか。	
1. 帯状疱疹 2. 百日咳 3. ポリオ 4. 日本脳炎	第28回 按マ指 (8439)

1-21. 細菌感染症はどれか。

- | | |
|------------|--------|
| 1. 帯状疱疹 | |
| 2. 流行性角結膜炎 | 第29回 |
| 3. 百日咳 | 鍼灸 |
| 4. 手足口病 | (8906) |

1-22. 細菌感染症はどれか。

- | | |
|---------|--------|
| 1. 手足口病 | |
| 2. 日本脳炎 | 第30回 |
| 3. 破傷風 | 按マ指 |
| 4. マラリア | (9080) |

1-23. 予防接種が有効な感染症はどれか。

- | | |
|---------|--------|
| 1. 百日咳 | |
| 2. 腸チフス | 第30回 |
| 3. C型肝炎 | 鍼灸 |
| 4. 猩紅熱 | (9247) |

1-24. 細菌感染症はどれか。

- | | |
|---------|--------|
| 1. デング熱 | |
| 2. 破傷風 | 第31回 |
| 3. 日本脳炎 | 鍼灸 |
| 4. 手足口病 | (9573) |

▶ 1-25. インフルエンザについて誤っている記述はどれか。

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 冬に流行しやすい。 | |
| 2. 呼吸器感染症である。 | 第13回 |
| 3. 予防にワクチンが用いられる。 | 按マ指 |
| 4. 高齢者は脳炎を起こしやすい。 | (3812) |

1-26. インフルエンザで誤っている記述はどれか。

- | | |
|----------------------|--------|
| 1. ウイルスはA、B、C型に分かれる。 | |
| 2. 伝搬力は弱い。 | 第20回 |
| 3. 潜伏期は感染後1～2日である。 | 按マ指 |
| 4. 咽頭粘膜のぬぐい液で診断できる。 | (5979) |

1-27. インフルエンザウイルス感染症について正しいのはどれか。

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 予防に手洗いは有用である。 | |
| 2. 春に大流行を起こしやすい。 | 第23回 |
| 3. 潜伏期は1, 2週間である。 | 按マ指 |
| 4. 三類感染症である。 | (6884) |

▶ 1-28. 「20歳の男性。3日前、風邪症状と38℃の発熱とがあり、いったん解熱した。本日、再び39℃に上昇すると共に全身に斑状紅色丘疹が出現した。リンパ節の腫脹はない。」本疾患について正しい記述はどれか。

- | | |
|------------------|--------|
| 1. ワクチンで予防可能である。 | |
| 2. 感染力は弱い。 | 第18回 |
| 3. 経口感染する。 | 按マ指 |
| 4. 抗生物質が有効である。 | (5344) |

1-29. 「20歳の男性。3日前、風邪症状と38℃の発熱とがあり、いったん解熱した。本日、再び39℃に上昇すると共に全身に斑状紅色丘疹が出現した。リンパ節の腫脹はない。」本疾患の合併症として頻度が低いのはどれか。

- | | |
|--------|--------|
| 1. 脳炎 | |
| 2. 中耳炎 | 第18回 |
| 3. 肺炎 | 按マ指 |
| 4. 精巣炎 | (5345) |

1-30. 麻疹について正しいのはどれか。	
1. 抗原迅速検査が可能である。 2. 空気感染しない。 3. 特異的な抗ウイルス薬がある。 4. 免疫がない場合、感染するとほぼ100%発症する。	第34回 按マ指 (10427)
1-31. 風疹について誤っているのはどれか。	
1. 「三日ばしか」と言われる。 2. リンパ節腫脹は2～3日で軽快する。 3. 妊娠初期における感染に注意を要する。 4. ワクチンが予防に有効である。	第31回 按マ指 (9412)
1-32. 正しい組合せはどれか。	
1. 流行性耳下腺炎———ムンプスウイルス感染 2. 消化性潰瘍———大腸菌感染 3. 虫垂炎———ビタミンC欠乏 4. イレウス———アレルギー	第1回 鍼灸 (222)
1-33. 疾患と病原体との組み合わせで誤っているのはどれか。	
1. 水痘———帯状疱疹ウイルス 2. 猩紅熱———A群溶血性連鎖球菌 3. 流行性耳下腺炎———サイトメガロウイルス 4. 急性灰白髄炎———ポリオウイルス	第15回 鍼灸 (4565)
1-34. ヘルペスウイルスの感染症でないのはどれか。	
1. 手足口病 2. 帯状疱疹 3. 水痘 4. 突発性発疹	第7回 鍼灸 (2079)
1-35. 帯状疱疹について誤っている症状はどれか。	
1. 神経痛様疼痛 2. 悪寒を伴う高熱 3. 皮膚の発赤 4. 小水疱を伴う発疹	第2回 鍼灸 (546)
1-36. 帯状疱疹について誤っている記述はどれか。	
1. 細菌感染である。 2. 疼痛を伴う。 3. 肋間神経領域に好発する。 4. 水疱が帯状に発生する。	第5回 按マ指 (1322)
1-37. 帯状疱疹の好発部位はどれか。	
1. 下顎 2. 胸部 3. 前腕 4. 下腿	第6回 按マ指 (1644)
1-38. 顔面病の原因となるのはどれか。	
1. 水痘ウイルス 2. 麻疹ウイルス 3. 風疹ウイルス 4. エコーウイルス	第10回 按マ指 (2870)
1-39. 帯状疱疹について正しい記述はどれか。	
1. ウイルスは神経節に潜伏する。 2. 発症部位は下肢が多い。 3. 発症率は高齢になるに伴い低下する。 4. 抗ウイルス薬は無効である。	第18回 按マ指 (5360)

1-40. 帯状疱疹について誤っているのはどれか。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 皮膚に水泡を生じる。 | 第22回
按マ指
(6588) |
| 2. 発症部位は下肢に多い。 | |
| 3. 抗ウイルス剤が投与される。 | |
| 4. 知覚過敏を伴う。 | |

1-41. 帯状疱疹の治療に用いられるのはどれか。

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1. 抗菌薬 | 第23回
鍼灸
(7039) |
| 2. 抗真菌薬 | |
| 3. 抗ウイルス薬 | |
| 4. 抗寄生虫薬 | |

1-42. 帯状疱疹について正しいのはどれか。

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 抗ウイルス薬が有効である。 | 第28回
鍼灸
(8588) |
| 2. 発疹は両下肢に好発する。 | |
| 3. コプリック斑が出現する。 | |
| 4. 小児期に発症する。 | |

1-43. 帯状疱疹について正しいのはどれか。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 小児期に発症する。 | 第31回
按マ指
(9413) |
| 2. 神経支配領域に皮疹を認める。 | |
| 3. 抗菌薬を投与する。 | |
| 4. 再発はしない。 | |

1-44. 水痘の症状はどれか。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 耳下腺の腫脹 | 第32回
鍼灸
(9912) |
| 2. 両頬部のびまん性紅斑 | |
| 3. 水疱へと進行する紅斑 | |
| 4. 解熱前後の斑状丘疹性発疹 | |

1-45. 帯状疱疹について正しいのはどれか。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 5類感染症である。 | 第34回
鍼灸
(10589) |
| 2. ウイルスの初回感染で起こる。 | |
| 3. ワクチンによって予防が可能である。 | |
| 4. 左右対称性に出現する。 | |

1-46. ウイルス性疾患と併発症との組合せで適切でないのはどれか。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 麻疹 ————— 脳炎 | 第17回
按マ指
(5048) |
| 2. 水痘 ————— 口唇ヘルペス | |
| 3. 風疹 ————— 先天性奇形 | |
| 4. 流行性耳下腺炎 ——— 睾丸炎 | |

1-47. ウイルス感染性疾患はどれか。

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1. 梅毒 | 第25回
按マ指
(7496) |
| 2. 破傷風 | |
| 3. 小児麻痺 | |
| 4. 脊椎カリエス | |

1-48. ウイルス感染症はどれか。

- | | |
|---------|-----------------------|
| 1. デング熱 | 第27回
按マ指
(8129) |
| 2. 梅毒 | |
| 3. 破傷風 | |
| 4. 百日咳 | |

1-49. 「12歳の女兒。頭痛、発熱と発疹が出現したが3日ほどで消失した。口腔内に発疹はなかった。その後、頸部のリンパ節腫大が続くため来院した。」最も考えられる疾患はどれか。

- | | |
|---------|-----------------------|
| 1. 麻疹 | 第28回
按マ指
(8444) |
| 2. 風疹 | |
| 3. じんま疹 | |
| 4. 手足口病 | |

1-50. 「12歳の女兒。頭痛、発熱と発疹が出現したが3日ほどで消失した。口腔内に発疹はなかった。その後、頸部のリンパ節腫大が続くため来院した。」この患者が最も接触してはならないのはどれか。

- | | |
|--------------|--------|
| 1. 高齢者 | |
| 2. 糖尿病患者 | 第28回 |
| 3. 妊娠初期の妊婦 | 按マ指 |
| 4. 同じ疾患の既感染者 | (8445) |

1-51. ウイルス感染症はどれか。

- | | |
|----------|--------|
| 1. 梅毒 | |
| 2. デング熱 | 第29回 |
| 3. マラリア | 按マ指 |
| 4. シフテリア | (8739) |

1-52. 感染症について正しいのはどれか。

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1. 風疹は「三日ばしか」と言われる。 | |
| 2. 日本脳炎はネズミの媒介によって感染する。 | 第29回 |
| 3. 水痘は精巣炎を合併しやすい。 | 鍼灸 |
| 4. 流行性耳下腺炎は空気感染する。 | (8907) |

1-53. 次の文で示す感染症はどれか。「丘疹から水疱となり、その後破れて痂痂を形成する発疹を呈する。」

- | | |
|--------|--------|
| 1. 猩紅熱 | |
| 2. 水痘 | 第30回 |
| 3. 風疹 | 按マ指 |
| 4. 麻疹 | (9078) |

1-54. 手足口病の原因はどれか。

- | | |
|---------------|---------|
| 1. コクサッキーウイルス | |
| 2. 単純ヘルペスウイルス | 第33回 |
| 3. アデノウイルス | 按マ指 |
| 4. ノロウイルス | (10087) |

1-55. 第1期梅毒でみられるのはどれか。

- | | |
|-------------|--------|
| 1. ゴム腫 | |
| 2. 硬性下疳 | 第32回 |
| 3. 梅毒性バラ疹 | 按マ指 |
| 4. 扁平コンジローマ | (9748) |

1-56. エイズ感染の原因とならないのはどれか。

- | | |
|----------|-------|
| 1. 性交渉 | |
| 2. 輸血 | 第2回 |
| 3. 握手 | 鍼灸 |
| 4. 針刺し事故 | (548) |

1-57. エイズについて正しい記述はどれか。

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 予防接種が有効である。 | |
| 2. 食物からも感染する。 | 第7回 |
| 3. ウイルスが原因である。 | 鍼灸 |
| 4. 感染者は隔離の必要がある。 | (2092) |

1-58. 「35歳の男性。発熱、乾性咳嗽および呼吸困難で入院。胸部エックス線写真で両側の中・下肺野にびまん性すりガラス状陰影を認め、喀痰細胞診でニューモシスチス肺炎と診断された。」この患者で陽性と考えられるのはどれか。

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. ライノウイルス | |
| 2. ヒト免疫不全ウイルス | 第18回 |
| 3. 成人T細胞白血病ウイルスI型 | 鍼灸 |
| 4. 単純ヘルペスウイルス | (5499) |

1-59. 「35歳の男性。発熱、乾性咳嗽および呼吸困難で入院。胸部エックス線写真で両側の中・下肺野にびまん性すりガラス状陰影を認め、喀痰細胞診でニューモシスチス肺炎と診断された。」本疾患で減少するのはどれか。

1. 単球
2. 好中球
3. Bリンパ球
4. Tリンパ球

第18回
鍼灸
(5500)

1-60. 性交渉で感染しないのはどれか。

1. エイズ
2. 破傷風
3. B型肝炎
4. 梅毒

第4回
按マ指
(1018)

1-61. 性行為感染症でないのはどれか。

1. 梅毒
2. 副睾丸結核
3. クラミジア感染症
4. 淋病

第9回
鍼灸
(2712)

1-62. 潜伏期の最も長い感染症はどれか。

1. エイズ
2. 淋菌感染症
3. 梅毒
4. クラミジア感染症

第19回
按マ指
(5668)

1-63. 感染症に含まれない疾患はどれか。

1. 風疹
2. 全身性エリテマトーデス
3. 帯状疱疹
4. エイズ

第8回
按マ指
(2262)

1-64. 感染症で誤っている記述はどれか。

1. 単純性疱疹は再発する。
2. 腸炎ビブリオ食中毒の潜伏期は数日間である。
3. カリニ肺炎はエイズに合併する。
4. 伝染性単核症では頸部リンパ節が腫脹する。

第9回
鍼灸
(2701)

1-65. 感染症で誤っている組合せはどれか。

1. 成人の水痘——重症化
2. エイズ——日和見感染症
3. 免疫抑制薬長期使用——菌交代現象
4. ヘルペス感染症——抗ウイルス薬

第12回
按マ指
(3489)

1-66. 感染症と病原体との組合せで正しいのはどれか。

1. 淋病——トレボネーマ
2. マラリア——細菌
3. シフテリア——ウイルス
4. 発疹チフス——リケッチア

第18回
按マ指
(5358)

1-67. 感染症とその特徴との組合せで正しいのはどれか。

1. 麻疹——イチゴ舌
2. 帯状疱疹——痂皮
3. 猩紅熱——精巣腫脹
4. 流行性耳下腺炎——コプリック斑

第19回
鍼灸
(5812)

1-68. 感染症について正しい記述はどれか。

1. 大量の抗菌薬を投与しないと日和見感染が起こる。
2. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌は院内感染の原因になる。
3. 腸管病原性大腸菌で起こる感染症を菌交代症という。
4. 生命に対する危険度が最も高いものは5類感染症に分類される。

第20回
鍼灸
(6122)

1-69. 感染症について正しいのはどれか。

1. インフルエンザウイルス感染は迅速な検査が可能である。
2. 麻疹は「三日ばしか」と言われている。
3. 带状疱疹は単純ヘルペスウイルスによる感染である。
4. 梅毒はクラミジアによる感染である。

第26回
鍼灸
(7965)

1-70. 感染症について正しいのはどれか。

1. ポリオは細菌感染症である。
2. 細菌性赤痢の潜伏期は約3週間である。
3. 日本脳炎はネズミの媒介によって感染する。
4. ニューモシスチス肺炎は日和見感染症の一つである。

第27回
按マ指
(8136)

1-71. ワクチンで予防可能な感染症はどれか。

1. 猩紅熱
2. マイコプラズマ肺炎
3. 麻疹
4. 梅毒

第27回
按マ指
(8137)

1-72. 感染症について正しいのはどれか。

1. ムンプスウイルスは空気感染する。
2. MRSAは院内感染の原因となる。
3. ボツリヌス菌による食中毒の主たる症状は血便である。
4. 風疹は精巣炎を合併する。

第27回
鍼灸
(8279)

1-73. 感染症について正しいのはどれか。

1. 猩紅熱はウイルス感染症である。
2. 結核は垂直感染する。
3. 破傷風では筋のけいれんが起こる。
4. エイズはワクチンにより予防可能である。

第28回
按マ指
(8446)

1-74. 潜伏期間が最も長いのはどれか。

1. 流行性耳下腺炎
2. エイズ
3. シフテリア
4. 破傷風

第28回
鍼灸
(8589)

1-75. 感染症について正しいのはどれか。

1. 真菌は日和見感染の原因となる。
2. マイコプラズマ肺炎の罹患は高齢者に多い。
3. 梅毒の潜伏期間は2～3日である。
4. 突発性発疹では口腔粘膜にコプリック斑がみられる。

第30回
按マ指
(9079)

1-76. 感染症と媒介生物の組合せで正しいのはどれか。

1. 発疹チフス ----- ダニ
2. トキソプラズマ症 -- シラミ
3. デング熱 ----- 蚊
4. 日本脳炎 ----- ネズミ

第30回
鍼灸
(9245)

1-77. 循環式浴槽の水質汚染によって発生するのはどれか。

1. B型肝炎
2. レジオネラ肺炎
3. ニューモシスチス肺炎
4. サルモネラ腸炎

第32回
按マ指
(9749)

1-78. 介護保険施設でノロウイルス感染症が発生した。感染を拡大させないための対応として適切なものはどれか。

1. 感染者の居室は次亜塩素酸ナトリウムで清拭する。
2. 感染者の吐物は乾燥してから処理する。
3. 感染者が使用したリネンは60℃の加熱処理を行う。
4. 感染者が使用した食器はアルコールで消毒する。

第32回
鍼灸
(9909)

▶ 1-79. 真菌による疾患でないのはどれか。

1. カンジダ症
2. クリプトコッカス症
3. アスペルギルス症
4. トキソプラズマ症

第9回
按マ指
(2558)

1-80. 疾患と病原体との組合せで誤っているのはどれか。

1. アスペルギルス症——真菌
2. トキソプラズマ症——マイコプラズマ
3. トラコーマ——クラミジア
4. エイズ——HIV

第10回
鍼灸
(3010)

1-81. 真菌性肺炎はどれか。

1. レジオネラ肺炎
2. マイコプラズマ肺炎
3. クラミジア肺炎
4. ニューモシスチス肺炎

第34回
鍼灸
(10604)